



ひのと賞

『もうひとつのwonder』 R.J Palacio

外国語学部英米学科 2年
中西 陽南

本編である『wonder』は、頭蓋面変形という頭と顔の形が他の人と少し違った病気を持つ主人公オギーという小学生が人の悪意と優しさに触れて成長していく物語である。しかし今回書評するものは本編ではなく外伝。本編でオギーをいじめたいじめっ子のジュリアン。小さい頃からずっとそばにいたクリストファー。オギーに優しくしていたシャーロット。この3人は小学生であり、この外伝の主人公たちである。

元々、著者であるR.J氏は『wonder』の続編を多くの読者から望まれていたものの、続編は作らないと明言されていた。また、著者によると、読者から嫌われていたジュリアンのために外伝を作ったという。そこで、今回はジュリアンについて注目していきたいと思う。

ジュリアンという人物は、人を笑わせるのが好きで、見下し癖がありプライドが高いお金持ちの子どもである。また、オギーのロッカーに報復として「奇形め、大嫌いだ！」という罵詈雑言等を書いた紙を毎日のように入れて、校長や先生にバレてしまい停学を受けるが全く反省せず、全部くだらない冗談と済ませようとする小学生である。ジュリアン編では、理事会の偉い人である母と弁護士の父が、停学に不満を持ちジュリアンは転校する事になる。そしてこの話のキーパーソンは、ジュリアンと昔似た経験をしたおばあちゃんと、後にジュリアンの名前の由来となる足に障がいを持ったトウルトーたちが、どうジュリアンに影響を及ぼすのかが一番の見どころである。

私がこの本で好きな言葉は、「わたしたちの身に起きることは、悪いことでさえ、たいていなにかしら自分について教えてくれるものだ」である。物事の向き合い方でその人の性格が出ることを教えてくれているのかと考えた。この主人公たちの話で共通していることは、「友達関係」「信頼」「思いやり」であり、親切とは何かを問いかけている。

この本は私たちを前向きにさせてくれ、人生のヒントとなる言葉があるので、是非この本書を紐解いて欲しい。

